

## 北ア 高瀬川・滝ノ沢ツバメ沢

田邊

【日時】 2007年9月15日(土)～16日(日)

【メンバー】L田邊、小暮、栗原、矢野

高瀬ダムの少し手前にある七倉ダムの駐車場に車を停めて入渓。出合は花崗岩の砂が堆積していて、所々足がズボズボともぐる。沢の感じは水量も多く、明るい感がある。

左岸の踏み跡をたどるとすぐに堰堤が現れた。ところどころにトラロープが見受けられるが魚影はまったく見られないので釣り氏のものというよりは管理用のものだろう。

堰堤を越えてしばらく行くと8mのヒョングリ滝が勢いよく水を噴出して現れる。ここは左岸から問題なく越える。浅い釜を持ったナメ状のゴルジュの中を進むと2段12m滝が水を豪快に落としている。水と戦いながら行けそうな気もしたが左岸を巻くことにした。降り口は立っているので懸垂となってしまった。狭い3m滝をやり過ぎすとツルツルした2段10m滝が行く手を阻む。ここは登れそうにないので左岸から小さく巻いた。その先は平凡な流れとなって野口沢と出合う。ここで小休止となった。

再び歩き出すと3m、6m、3mと滝が続いている。ここを登るとすぐに7mと10mの狭まった滝が現れる。7m滝は簡単に登れるが10mの方は足元が滑りやすいので慎重に左の岩を登った。どの滝も豪快に水を落としているが小暮・矢野の2トップが弱点を見つけてどンドンと越えていく。

右から合流する12mのスダレ状の滝を見ながら進むと幅広い4m滝が出てくる。このあとの3m程度の滝を水に濡れながら3つほど越えて、しばらくすると10m程度の滝が2段になって現れた。ここは矢野君が「チャレンジしていいですか？」と言うのでOKを出したが、かなり厳しそうである。スタンスが乏しいので数回のチャレンジであきらめて左岸を小さく巻いた。北アは全体的にそうだが、踏みあとがはっきりしているので巻きは何ら問題がない。

沢は大きく右に曲がり明るいゴーロ状へと変わる。小滝を2つほど越えて、巨岩をやり過ぎると



3mほどの狭まった滝が出てくるので、ここは皆大股を開いて越えていく。栗原さんはステルスバターの靴が滑るようであっけなくおっかなびっくりの様子であるその先の5m2条滝を越えるとゴルジュの中にナメが続いている。

しばらく進むと左に岩峰が現れ、その先には右側壁が高く立った独特の景観で我々の眼を楽しませてくれる。

滝ノ沢とは1:1で水流を分け、ツバメ沢は穏やかな流れとなって我々を迎えてくれた。



その先の滝も問題になるようなものもなく、どんどんと高度を上げていく。これはどう見ても4級は無いなとたかをくくっているところに、簡単に高巻けそうにない瀑水を飛ばす15m滝が現れた。下には岩が剥がれ落ちたガレが溜まっている。初めは左のハングした壁にハーケンが打ってあるのにつられて、小暮君がスリングアブミでチャレンジしたが4個目のハーケンが抜けて引き返した。ハングを登っても先がどうなっているか分からないので荷揚げができるか分からないこともあって、水流を横断して左岸から登る方法に切り替えた。

水流は勢いもあって体が持っていられる可能性もあるのでハーケンとキャメロットを決

ツバメ沢に入って進むと4m程度の小滝が続くがどれも快適に登れるので気持ちがよい。4m、15mのナメ滝を含めた連瀑帯を登り終えると沢が右に曲がり、3m滝を過ぎると滑り台のような6mのスラブ滝が現れる。ここは水流の端を滑らないように登った。

その先の6mトイ状の滝を手足で突っ張りながらうまく越え、さらに5mヒョングリ滝、4mトイ状滝とどんどんと登って時間を稼いでいく。

しばらく進んだところで滝が斜めにトイ状になって、S字状に水が流れ落ちている大滝が現れる。ここは足が滑りやすいが慎重に突っ張りながら私が登り、お助けを出して後続を引っ張った。







めて、矢野君リードで難なく越えた。体の軽い栗原さんはやはり水流に持っていかれたがザイルが付いているので落ちるようなことはない。

その先で沢は左に曲がっており、ガイド本にはこのあたりで泊まったことになっているがいいテンプル場が見当たらないので、さらに先に進むことにした。

次の20m大滝はザイルなしで各々中段あたりまで進むが、落ち口の先が見えないのでどうしたものかと考えているうちに矢野君は突っ込んでいってしまった。よく見ると中段から左側に渡れるところがあって、そこからはわりとホールドがあるので簡単に登れるのであった。結局、矢野君はあきらめて引き返してきて、中段の同じルートから登ってきた。

もう時間も時間なので幕場を探しながら進むと、わりといい場所が見つかったので今宵の幕場と決めてザックを下ろした。夜は星も見えるいい天気であった。

翌日はほとんど滝もなく下山だけなのがわかっていたので、朝はわりとのんびりの出発となった。

ナメ状の滝を2つほどやり過ぎすと高度1900mあたりで沢は二俣に別れる。ここを左に入り、ナメ滝5mを越えてさらに進むと水も細くなってくる。ポリタンに水を溜め、沢筋を拾って忠実に詰めていくと最後は熊笹の藪こぎとなって10分程度で登山道へと出ることができた。

予定通り下山の途中でタクシー会社へ電話をかけて、白沢口に迎えに来てもらうことにした。白沢口まではわりと整備された登山道で登ってくる登山者にも何人か会った。白沢口から七倉ダム下まではタクシーが7千円弱であった。

今回は足も揃ったメンバーであったので、それほど困難なところもなく、スピーディーに行動することができてリーダとしては気楽でした。ありがとうございました。

**【グレード】**4級

**【行程】**9/15 ダム下駐車場(8:20)～トイ状大滝50m(14:15)～BP(16:10)

9/16 BP(7:00)～登山道(8:30/8:45)～白沢口(12:00)

**【地図】**烏帽子岳、大町南部